日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

附属国際原子力工学研究所 泉 佳伸
（機械･システム工学科 原子力安全工学コース）

令和元年度[1]、令和 2 年度[2]の優秀教員に選出された後、やはり予想通りにコロナ禍の影響で 2 年間 この『優秀教員』というものから遠ざかっておりました。そして、所謂「2 類から 5 類への移行」を経て 講義の提供形式がほぼ通常通りとなったタイミングで再び選出されました。この場をお借りして私と関わって下さった全ての関係各位にお礼を申し上げます。『予想通り』と表現しましたのは、令和 2 年度にも書かせて頂いた[2]のですが、『私の講義のモットーは、LIVE 感であり、INTERACTION』 だからあり、リモート講義ではその特徴を活かす事が困難だったからです。

私自身は、放射線に関する化学、生物学、物理学及び計測や防護の講義を担当していますが、学部 3 年生に対する授業については、実験・実習系科目を除けば後期に 2 科目『放射線防護工学』（分担、9/15 コマ 担当）と『放射線安全工学』（分担、3/15 コマ 担当）を担当しているに過ぎません。この 2 科目は 所謂『基礎学問的面白さ』を伝えられる様な場面に乏しく、恐らくは受講生にとっては退屈な科目だと思います。（私自身が教わった時にも 私自身がその様に感じました。）そこで、福島のその後の状況に合わせた話題を時々持ち出し、講義の内容との関連について語りました。『自分たちが教わっている内容が、如何に実社会と繋がっているのか』や『産業界でどの様に役立てられるのか』を感じる事は、若い世代にとっては特に重要だと感じているからです。

投票してくれる学生は 3 年生ではありますが、ひょっとしたら 1，2 年の時に履修した講義の印象が残っているのかも知れません。もし そうだとしたらとても嬉しい事です。私は、2 年生前期に『放射化学・放射線化学』を、2 年生後期に『放射線化学・生物学 』を単独での担当で講義提供しています。これらの科目は、『放射線防護』の様な科目と比較すると、幾らか基礎学問的であり、知的好奇心を擽られる内容です。その様な科目を担当する際には、極力基礎の根本的なところ、重要な事項に立ち返り、受講生の反応を見つつ進める様に心がけています。だから、講義の資料は毎年度あまり変わりませんが、喋る内容が大きく変わることがあります。前述しましたが『私の講義のモットーは、LIVE 感であり、INTERACTION』だからです。1 年生前期の『はじめての原子力工学』（分担）や『機械・システム工学科概論 I 』（分担）、1 年生後期の『機械・システム工学科概論 II』（分担）、及び応用物理学科の 3 年生後期の選択科目である『原子力エネルギー・放射線工学』（分担）では、いずれも導入科目的講義の性質を帯びますから、好奇心を引き出し、今後の学習のモチベーションに繋がる様に工夫しています。その工夫は、コロナ前と変わらず『双方向性』のある講義運営です。他の先生方の講義を聞かせて頂く機会が時々あるのですが、大抵は一方的に語り続ける講義です。些細な事でも良いので、講義に関連した事柄を学生に問い、その反応によってその

後の語りを変えています。

そんな訳でして、『講義は話芸の一種』でありますから、以下の文献[3]を大いに参考にさせて頂き、日々勉強させて頂いております。

２．今後の教育への抱負

この『優秀教員』と言うものは一体何なのでしょうか？今の学生さん達は『優秀な教員』とはどの様なモノだと考えているのでしょうか？3 年生の投票で選ばれる「人気教員」？『授業が上手な教員』が『優秀教員』だと言い切れるのでしょうか？今の時代、「厳しい先生は嫌われる」傾向にある様に思います。(多分、私はかなり厳しい先生だと思われている・・・・)3 年生による投票だけでは絶対に測る事が出来ない視点『卒論や修論での研究指導』があります。教員といえどもスーパーマンではないので、授業が巧くて研究指導も理想的で、アウトリーチが盛んでなんて全てオールマイティに高評価を得られる先生は極稀だと思います。我々教員がそれぞれの特長をうまく活かして、何か一つ特徴や良いところを持っていればそれで良いのだと思います。

私は、低学年に対しては詰込みではなく学習へのモチベーションを与え続けられる教員であり続けたいし、卒論や修論を始める頃に困らない程度の学力を付けさせてやりたい。卒論や修論の研究で直接、間接に関わる学生には、自ら問い続ける力や試行錯誤、創意工夫をドンドン出来る力強さを伸ばしてやりたい。少なくとも何かに躓いたり困ったりした際にすぐに教員に正解を求めて聞きに来る様な学生をゼロにしたいと思っています。学生に何か質問されたら、「あなたはどう思う？」「貴方の意見は？」と問い返す様な嫌らしい教員であり続けようと思います。

参考文献

1） 泉 佳伸，**『日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負』**令和元年度 優秀教員レポート，https://www.eng.u-fukui.ac.jp/wp-content/uploads/r1_n_izumi.pdf

2） 泉 佳伸，**『日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負』**令和 2 年度 優秀教員レポート，https://www.eng.u-fukui.ac.jp/wp-content/uploads/r2_n_izumi.pdf

3） 桂 米朝，**落語と私**，文春文庫（1986）；桂 米朝，**上方落語ノート**（第 7 版），青蛙房（1993）；桂 米朝，**一芸一談**，淡交社（1991）etc.